

仮設住宅のリサイクル化と早期設置型『支援ハウス』の提案

A. 参考資料：応急仮設住宅の建設戸数と建設所要日数、その後の処理について

災害名 (被災地名)	雲仙・島原噴火 (島原市)	北海道南西沖地震 (奥尻島)	阪神・淡路大震災 (神戸市)	北海道有珠山噴火 (虻田町)
建設戸数（戸）	1,018	330	32,346	733
使用戸数（戸）	1,018	330	32,346	733
被災日時（年月日）	1991.6.3	1993.7.12	1995.1.17	2000.3.31
仮設住宅発注日時（月日）	6.4	7.13	1.19	4.14
最初の入居（月日）	6.22	8.28	2.17	5.10
最初の入居までの所要日数	19	47	31	40
全戸数完成日時（月日）	10.24	8.28	8.20	7.20
全戸数完成までの所要日数	135	47	215	111

その後の処理

住民などへの払下げ戸数	0	0 ⁴⁾	0	0
解体廃棄処分戸数（戸）	1014	330	不明	673
解体保管戸数（戸）	3	0	0	0
行政施設としての再利用戸数	1	0	0	0
他の被災地への再利用戸数	0	0	2,822 ¹⁾	0
その他の利用戸数（戸）	0	0	9,803	0

注 1) 被災地名：ペルー225戸、トルコ1600戸、台湾1000戸

B. 支援ハウス 1型 「世界初の強化プラスチック製で造られた住宅」 2005.7製作

保管時：全長2.5m、幅2.2m、高さ0.9m、全重量800kg（備品とも）

組立時：床面積6.7m²、居住定員4名、組み立て時間：約60分 解体時間：約45分（クレーン不要）



4t トラックに3戸、10t トラックに9戸積載。大人4名で組立て可能



C. 支援ハウス 2型 (床面積 9.25 m²、トイレ・物置外付け 1.08 m²) 2011.7 製作



1型に比べ一回り大きく、トイレは外付けとし、フリースペースを設けるなど居住性を向上させ、組立て方式を改善した。4t トラックに2戸、10t トラックに6戸積載可能。

D. 活用事例



新潟県中越地震：小千谷市に設置された支援ハウス（2005.11-12）と災害ボランティアの青年たち（1ヶ月生活）



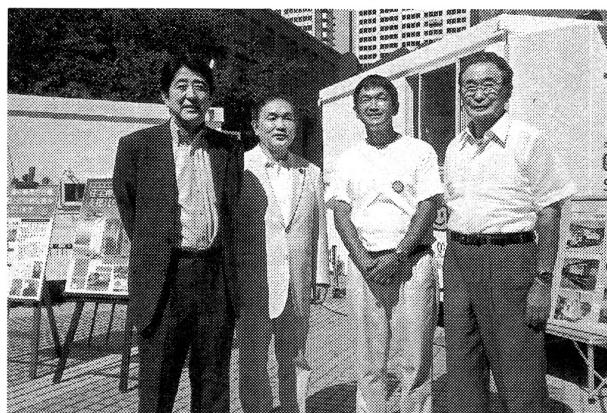
東日本大震災：宮城県石巻市社会福祉協議会ボランティアセンターに設置された支援ハウス（2011.3-9）と
災害ボランティア（NPO法人オンザロード）の青年たち

E. 展示会



「2005 国際プラスチックフェア」
特別展示（千葉県幕張メッセ・玄関にて）

2011.7.15 「東京都庁」見学会
(石原知事、猪瀬副知事、安倍元総理、林元防衛大臣ほか、都職員が見学)



復興支援ハウスの見学会に訪れた（左から）安倍元首相、小林
興起衆議院議員、岡村精二氏、石原慎太郎東京都知事



東京都庁「ふれあいモール」に展示された「復興支援ハウス」
(左)と新開発の「スマイリー」

石巻でも有用性に注目

岡村精二氏の復興支援ハウス

山口県議会議員の岡村精二氏が、平成十七年に開発（本紙第833号1~2面参照）し、工学博士（岡村精一建築設計事務所）山口県宇部市大字東須恵二二七一一五、電話〇八三六一四一五四三五（www.okamura21.com）に利用されたオールFRP製

の災害用早期設置型組立て式「復興支援ハウス」が今回の東日本大震災で被災した石巻市でも、ボランティアの活動拠点として活用されて大きな注目を集めた。

同ハウスは、組立時の全長四・〇メートル、幅と高さが各二・二メートル、床面積七・二平方メートル。床面積七・二平方メートルで前記の設備機材一式が収納された全重量は約八〇〇キログラム（パクトなため四・八トントラック二台）。

岡村精二氏が開発した災害用早期設置型組立て式「復興支援ハウス」は、平成七年の阪神淡路大震災の被災者の多くが、プライバシーのない避難所暮らしを強いられると共に仮設住宅の建設に長時間が必要な問題などを解消する目的で開発されたものである。

岡村氏は、小千谷市や石巻市での活用事例から、同ハウスが、仮設住宅建設作業などの施設などとしても有効だと思ふ。また、大都市大震災においては公園や小さな空き地に設置できて簡単に解体撤去で

室内設備は一段ベッド四人分収納スペース（ベッド下、引き出し）、トイレ・シャワー・流し台・吊戸棚・コンロ・冷蔵庫・換気扇（太陽電池利用）・テーブル等が配備されている。

ハウスの外周六面は、再利用と大量生産を考慮してオールFRP製になっている。保管時の大軸は全長三・七メートル・二・二メートル、高さ〇・九メートルで、

組立て式の傾斜地で設置可能なのである。岡村氏は、新たに段と大型快適に過ごすことができた。

クビリ、一〇・八トラックなる新・復興支援ハウス「スマイリー」を開発している。

「スマイリー」の組立て時間は、長さ五・一メートル、幅二・九メートル、高さ一・六メートルの寸法は、長さ五・一メートル、幅二・九メートル、高さ一・六メートル前後で床面積は一〇・三三平方メートル（本体が九・二五平方メートル）。設備も温水器、エアコン、大型太陽電池、

ガス炉等が備わっており、外装面はオールFRPで組立て所要時間は大人四人で約一時間、解体は三千分の一〜二分で、四・八トントラックなる外装面はオールFRPで行なうことができる。

のスマイリーの二戸を開発した。当日は三五度Cの猛暑だった。

このため岡村氏は、東京都事務官、河村建夫元官房長官、林芳正元防衛大臣、小林興起衆議院議員、生方幸夫衆院議員、岸信夫参院議員、さらに東京都からは都議会議員、区議会議員、町村の応急仮設住宅建設担当職員など二五〇名以上の関係者が見学に訪れ、それぞれに岡村氏から同ハウスについて詳しい説明を受けていた。

安倍元大臣や石原都知事

復興支援ハウスの展示見学会

岡村精二氏が開発した災害用早期設置型組立て式「復興支援ハウス」は、平成七年の阪神淡路大震災の被災者の多くが、プライバシーのない避

難所暮らしを強いられると共に仮設住宅の建設に長時間が必要な問題などを解消する目的で開発されたものである。

平成23年8月1日

第979号

昭和43年11月5日第三種郵便物認可

発行所
(有)産業資材新聞社

（社団法人日本専門新聞協会会員）
編集発行人 高橋儀徳
東京都千代田区神田岩本町15-2
北原ビル 電話03-3255番9821㈹
〒101-0033 FAX03-3255番9823㈹
E-mail:frpnews@calis.ne.jp
URL: http://www.frpnews.com
振替口座 00140-4-146128

きる特徴がある＝岡村氏＝と述べると共に「支援ハウスの活用には『備蓄』が不可欠であり度重なる災害の発生、必ず来る」と予測される関心。このため岡村氏は、東京都事務官、河村建夫元官房長官、林芳正元防衛大臣、小林興起衆議院議員、生方幸夫衆院議員、岸信夫参院議員、さらに東京都から都議会議員、区議会議員、町村の応急仮設住宅建設担当職員など二五〇名以上の関係者が見学に訪れ、それぞれに岡村氏から同ハウスについて詳しい説明を受けていた。

（日）午後六時まで、東

京都府第一・同第二本庁舎の間にある「ふれあいモール」

公園内に、石巻市から運んだ